

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野 貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 ☎763-5110
 会長 加藤 敏昌
 幹事 青山 敏郎
 会報委員長 小池 宗

No. 45

ROTARY BRINGS HOPE ロータリーは希望をもたらす

1986~87年度

RI会長 M.A.T. カバラス

第239回例会 昭和62年5月26日(火) 曇

◇“奉仕の理想”

◇出席報告

会員 56名 出席 42名

出席率 75%

前回 5月19日 (修正出席率)98.25%

◇ビジター紹介 6名

◇お誕生日祝福

石田君(5/27)、原君(5/28)、浅井君(6/1)、黒須君(6/1)

◇ニコボックス

松居 敬二君 15RC麻雀会で30等賞をいただきました。早退させていただきます。

和田 正敏君 スピーカー 林 博史先生を御紹介申し上げます。

太田 茂君、菅原 宣彦君 早退申し訳ありません。

宮尾 紘司君 5/23株式会社アンサーを設立しました。よろしく。

青山 敏郎君 前回欠席で申し訳ありません。

秋山 茂則君、新美 敢君 早退します。

水野 民也君 会場バッチを忘れ幹事に注意されました。ありがとう。

原 富士雄君 誕生日祝い。結婚記念日祝い。

石田 耕嗣君、浅井 誠寿君、黒須 一夫君 誕生日祝い。

佐野 寛君 結婚記念日祝い。

◇青山幹事報告

1. 本例会終了後、理事役員会を開催いたしますので、理事役員の方は2F橋の間にお集まり下さい。

2. 次年度各委員会の委員長の方は、次年度クラブ計画書資料をお持ち帰り下さい。

◇加藤(敏)会長挨拶

本日は、癌の免疫治療についてお話し申し上げますが、癌に対するこの考え方は、極く最近の事で、知識の浅い私には癌が免疫によって治療出来るとは、想像も付きませんでした。

免疫学に加えて遺伝学が講ぜられると非常に理解しにくく私も充分理解しているとは言えませんが、高等学校で使用される生物の参考書を開いて見られたら、1959年ノーベル医学生理賞に輝いた「DNA」二重鎖説がのっているはずで、その周辺をお読みになったら、ある程度の事は、御理解出来ると思います。非常に分かり易くお話しすれば、自分自身にもっていない物質が体内に侵入する、これを抗原と申しますが、この抗原に対し生体内では、抗体が産生されます。この過程は、非常に複雑で、癌細胞により、侵された個体はこれに対しリンパ系由来の抗体が発生し、癌細胞を抑え付けようとする。しかしながらこれは、広範に進行した癌には有効とは言えず、術後に抗癌剤と共に使用されていますが、明らかな癌細胞の遺残あるいは、巨大な癌に対しては、全く無効です。免疫療法も外科的根治手術が行われない場合には、前々から申し上げている通り、いかなる治療方法を用いても、単なる永命効果を期待しているに過ぎません。私見ですが手術的操作にも限界がありますので、将来仮に癌が地球上より消滅することがあるとするならば、「モノクローナル抗体」に抗癌剤をもたせ、癌細胞を破壊する薬物療法がもっとも期待されるような気がしてなりません。1個のリンパ球は、1種類の抗体しか作りませんがこれを「モノクローナル抗体」といいます。これが色々作成され、種々の癌組織、親和性のものが発見されれば、その前途は非常に明るくなっていくと思います。

◇講演

“心臓について”

名古屋大学第一内科

林 博史 氏

(紹介 和田君)



心臓は一生に30億回以上打ち続ける強靱な臓器ですが、この病気での死亡率は近年著しい増加の一途をたどっています。

特に心筋梗塞の増加は恐るべきものがあり、日本ではこれによる死亡率は、1960年に年間2万人（26分に1人の割合）だったのが、1977年には6万人（8.8分に1人）、1985年には8万人（6.6分に1人）と増加しています。一方アメリカでは、各々72万人（44秒に1人）56万人（1分に1人）、48万人（1.2分に1人）と減少しています。従って、日米の死亡率の比率は、1:3.6、1:1.9、1:1.6と格差が縮まっています。

こうした傾向の生じた大きな原因の1つは、食習慣の差と考えられます。即ちアメリカでは、ミルク、バター、卵、動物脂肪の消費が10～40%減り、植物脂肪、魚のそれが各々58%、23%増加しました。日本では、これと逆の傾向が見られます。心筋梗塞の恐ろしさは、その勝負の速さにあります。欧米の統計によれば、心筋梗塞による全死者の50%の人が亡くなるまでの時間（死亡時間中央値）は1時間54分といわれます。救急体制の充実の必要性が叫ばれるゆえんです。

狭心症、心筋梗塞の危険因子は多数ありますが、主なものは高コレステロール血症、高血圧、喫煙、糖尿病、肥満、痛風、年齢、家族歴、性、などです。最近では、これに加えて、HDL（善玉）コレステロールの低値、タイプAの人格なども関連することが分かってきました。タイプA人格とは、短気、強い競争心、猛烈に努力、のめり込む、敵意、強い語気、吸気、顔筋のケイレン、ゲンコツを握りしめるなどの特徴を持ち、その反対のタイプBの人に比して、男女共に8年間の経過観察で約2倍の冠動脈疾患（狭心症、心筋梗塞）の発生率が認められました。

また年齢については、以前は心筋梗塞は高齢者の病気と考えられていましたが、欧米でも、我国でも若年化傾向があり、父子共に冠動脈疾患を罹った数十組の人達の発症年齢を比較した所、息子の方が父親より平均13才早く、発作が起きていることが分かりました。

夫婦間の危険因子については、夫が梗塞になった場合とそうでない場合、妻が冠動脈

疾患になる頻度は、各々7.3%、4.1%で余り差が顕著ではないのに対して、妻が梗塞となった場合とそうでない場合で、夫が冠動脈疾患になる頻度は、各々26%と16%で大きな差が生じます。食生活を含めた環境因子の重要性が分かります。

従来言われていた危険因子も、それらがより多く、また高度の異常が組み合わさる程、それらの相乗効果で、梗塞になる確率は、驚く程増大します。例えば、高血圧があるだけで、他には異常がない人に比して、高血圧、高コレステロール血症、糖尿病、タバコ、心臓肥大のある人は、60倍もの危険をはらんでいます。1つでも危険因子を減らすことが必要です。

冠動脈疾患を防ぐには、以上のような危険因子を減らす努力と共に、運動の効用が叫ばれています。その種類としては、ダイナミック運動（ジョギング、水泳、縄とび、ラジオ体操）の方がスタティック運動（鉄棒、腕立て伏せ、ボディビル）より好ましい運動とされています。

これらの運動を毎日20～30分実施する人は、全くしない人に比して、65才以上の人では、100人当りの死亡者数が、10～20人少ないことが認められています。

また、ワインを多く飲む国々（フランス、イタリア、西ドイツ等）の方が、そうでない国々（アメリカ、フィンランド、スコットランド等）に比して、冠動脈疾患による死亡率が低いことが分っています。

大いに運動をして、ワインと人生に乾杯！！

◇5月度理事役員会議議

1. 橋本 義郎君退会の件
退会届の提出を承認。
2. 本年度最終例会（6/30）の件
ワイン試飲会の立食パーティ。
希望者は夫人同伴可。
3. ロータリー旗の件
今年度1枚と次年度1枚追加。
4. その他

ボンベイ市中央地区RCより「世界の人形」展示会の参加依頼があり、当クラブ希望者より人形の寄附を受付ける事を決定。

◇例会変更のお知らせ

名古屋守山RC 6/13(出F,S,M)の為、(株)円庄にてPM 6:00より

◇次回例会（6月2日）

講演 “ライフラインの震害と地盤”
名城大学理工学部教授

堀内 孝英 氏 （紹介 鷲野君）

◇次々回例会（6月9日）

講演 “企業の活性化”

(株)セントラル経営センター 取締役企画部長
高岸 義昭 氏 （紹介 渡辺君）